

## 広島平和記念資料館本館のリニューアルオープンについて

### 1 本館リニューアルオープンの日程について

広島平和記念資料館は、国の重要文化財である本館の耐震化や、被爆の実相をより分かりやすく伝えるための展示更新などを目的として、施設の改修や実物資料を中心とした展示整備を行う再整備事業に取り組んでいます。

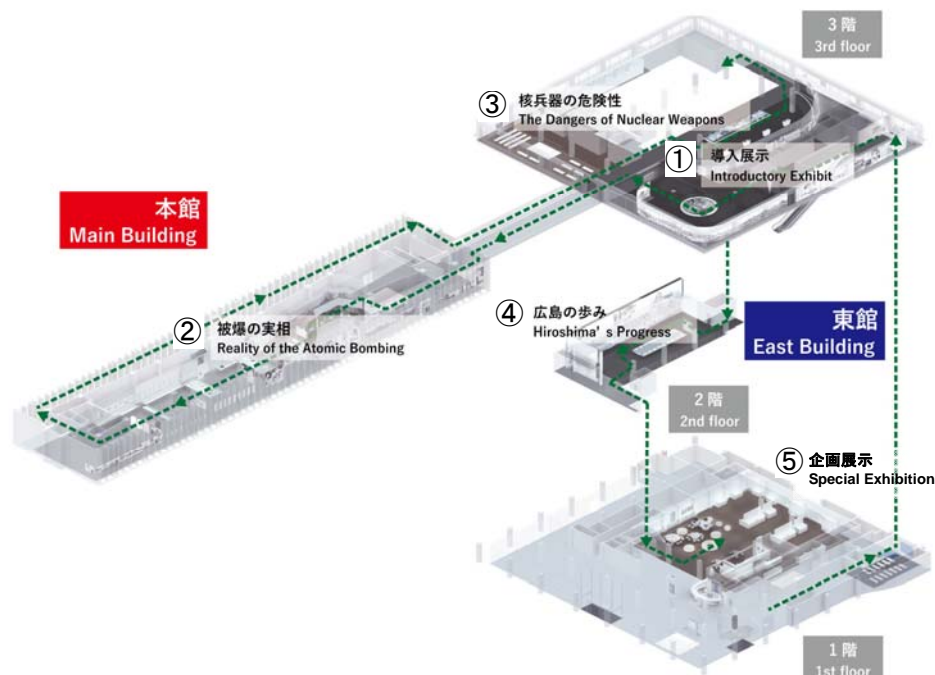
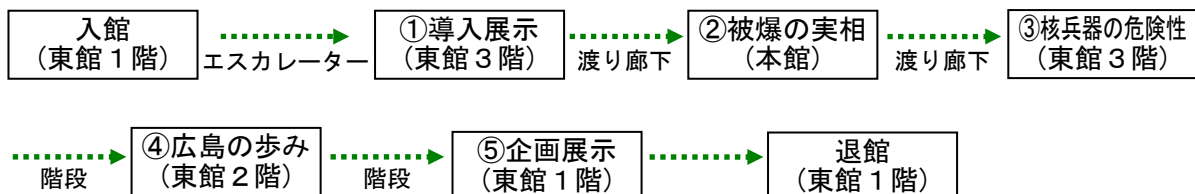
平成29年(2017年)4月にリニューアルした東館に続き、この度、本館のリニューアルについて次のとおり日程を決定しました。

### 本館リニューアルオープン：平成31年(2019年)4月25日(木)

- 本館の開館準備等のため、前日4月24日(水)の広島平和記念資料館の開館時間を午後2時までとします。
- 本館の耐震改修工事については、被爆75周年に当たる2020年の平和記念式典の開催に支障を生じさせることのないよう全ての事業を完了させるという方針を堅持しつつ、本館リニューアルオープン後も引き続き実施します。

### 2 本館リニューアル後の観覧動線と展示内容について

リニューアル後の観覧動線は下の図のとおりとし、展示内容については、「①導入展示」と「②被爆の実相」において、パノラマ写真やコンピューターグラフィック、被爆者の遺品や被災写真等の実物資料により被爆を自らのことのように肌で感じていただくとともに、「③核兵器の危険性」と「④広島への歩み」において、解説パネルなどにより核兵器開発の歴史や核兵器廃絶に向けた動き、広島への復興への取組などを知識として習得していただけるようにします。さらに、「⑤企画展示」では、専門性の高いテーマ等様々な切り口から常設展示を補完する展示を行います。



### 3 本館の展示概要について

東館の「導入展示」と、新しい本館の「8月6日のヒロシマ」ゾーン、「被爆者」ゾーンという三つの展示を重ね合わせることで段階的に具体性が高まっていくような展示構成とし、あの日、きこの雲の下で何が起こったのか、またその後広島の人々がどのような悲しみや苦しみを背負って生きたのかなど、被爆の実相を観る方に肌で感じてもらえるようにします。

#### <「8月6日のヒロシマ」ゾーン>

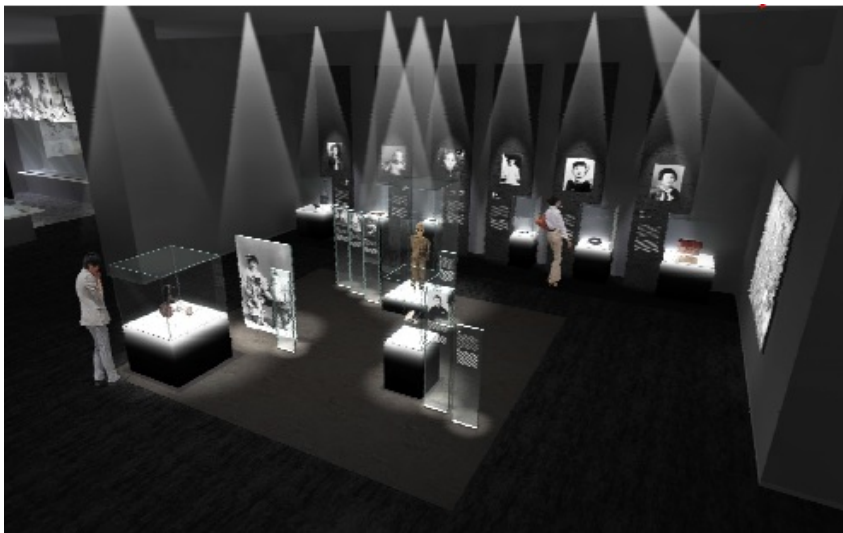
爆風で曲がった鉄骨の梁や煙突などの大型展示物と被爆者が当時身に着けていた衣服などを集合展示することによって、観覧者自身が被爆直後の広島に立っているかのような感覚で、その惨状を肌で感じることができる展示としています。



(イメージ図)

#### <「被爆者」ゾーン>

「三輪車」や「弁当箱」などの遺品を、遺影や遺族の手記と共に展示することにより、観覧者が被爆者や遺族の思いと向き合えるようにすることで、被爆者や遺族の苦しみ・悲しみが伝わりやすい展示としています。



(イメージ図)